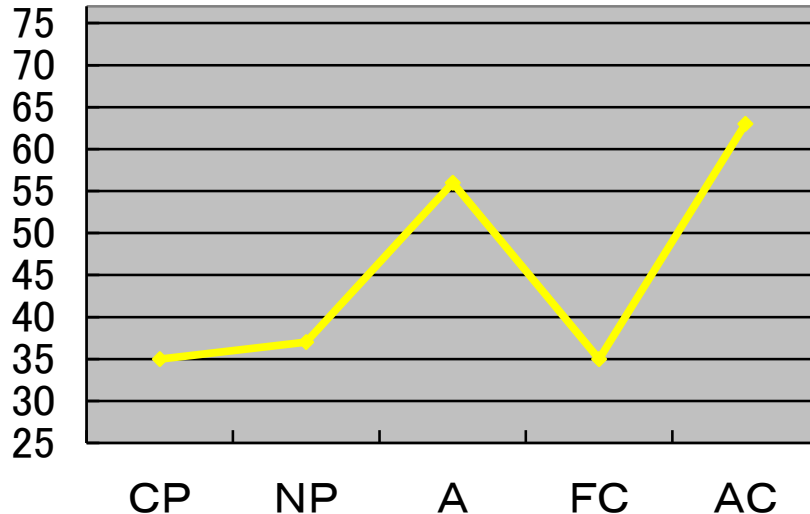


母親に甘えられず育つ



ご両親とも国家公務員総合職、いわゆるキャリア官僚である。研究と実務に多忙な生活を送っていた。彼女は2年半前の小学5年生の時、母親の研究留学に同行し、1年間イギリスで生活した。日本人学校ではなく、現地の小学校に通った。毎晩母親から英語を教わり、英語で授業を受け、友達と英語で話した。お陰で、小学生ながら英検2級を取った。

帰国後、英国帰りを妬まれいじめを受け、不登校になり、相談を受けた。その時採ったエゴグラムが上記である。

A（知性）とAC（順応性）が特に高く、CP（父性）とNP（母性）、FC（感性）がとても低いので、現実的で、テキパキとした身のこなしで（とても高いA）周囲の人から一目置かれる存在である。また、仕事（やっていること）がうまくいって褒められても、「いえ私なんか」と謙遜して周囲を黙らせることもある（とても低いNPとFCから）。しかし、謙遜のつもりでも、相手は嫌味だとか真面目すぎると思っているかもしれない。折角の努力も正当な評価を受けることができず、対人関係もギスギスしたものになりかねない。そこで能力を認められたら、FCの特性を活かし、笑顔で明るくおどけてみせる。あくまで笑顔を忘れないこと。お茶目な自分を演出したり、同時にNPの要素ある、褒められたら褒め返してあげるといった思いやりの行動することで、自身の中の新しい可能性が芽生えてくる、とアドバイスした。

しかし、気になったのが、12歳の女の子にしては低いNP（母性）だった。一人っ子にしても、既に思春期を迎えている。しかも、1年間“母親べったりの生活”をしており、母親との関わりが少ないわけではない。否、心理的には“べったり”ではなかったのか。CP（父性）とFC（感性）の低さと、AC（順応性）の高さ故に、不登校である。

不登校の解消は、「年齢に応じた生活習慣」から始まる。彼女に学校の時間割と「生活管

理シート」を渡し、1日の生活を記入し、「年齢に応じた生活習慣」を自己管理させた。勿論、1年近くの不登校生活からはなかなか簡単には脱しきれない。そこで本人と話し合い、ご両親の了解を得て、提携する寮で1週間寮生活をさせて頂いた。その寮母さんの話から、NP（母性）の低さの原因が分かった。やはり彼女は、母親と心理的に“べったり”した生活を送ったことがなかった。寮母が、入退寮時の母娘の様子から母親に問うと、厳しい親の元で育った母親曰く、儒教の教えが深くしみ込んでいるためか、子どもの甘えを素直に受け入れず、ついつい娘に厳しく接してきてしまった、と。また、彼女は寮生活で、自分から進んで料理をしてくれたり、一緒に生活している小学生と遊んだり、英語を教えたりしてくれた。その度に寮母が褒めると、照れながらいい笑顔をみせてくれた。夜には寮母に甘えなくなったのか、寮母にべったりくっついてきて、いろんな話をして楽しんでた。彼女は、同性の母親に甘えられずに育ったことが自己の不安定さを招き、いじめを受けそれをはね返せず、ひきこもった、と分析した。

親の過保護は、子どもの自己を安定させる。親の過干渉は、子どもの自立を阻害する。

彼女の不登校解消は、上記の通り「年齢に応じた生活習慣」を自己管理することから始まった。そして3カ月後、中学校の教頭先生の協力を得て、給食登校を始めた。最初は多忙な両親ながら交代で彼女と一緒に登校してもらい、2カ月目頃からは一人で登校した。彼女は一人でバスには乗れず、ましてや一人で電車に乗って遠出することなどは両親には想像できなかった、と言う。イギリス生活の時も然り、彼女がちょっと外出する時でも忙しい母親が付いて行った。でも、母親には迷惑で、不満だったろう、と想像する。ご両親は当時、過保護と過干渉のバランスが分からなかった、と言う。そこで、ご両親には無理してでも彼女と一緒に楽しむ時間を作って頂き、彼女に十分甘えさせてもらった。頻繁に近場に出掛けては一緒に楽しんだ。夜も彼女と一緒に楽しく過ごす時間を作ってもらった。そして5カ月後には、励ましながら得意な英語の授業から参加させた。3月には、無理して学校の他の授業にも参加した。そして遂に、4月の新年度から完全登校を果たした。